

第13回検討委員会のとりまとめ

1. 中島閘門下流部について

下流部は、波浪や出水の影響を大きく受けることから、想定される外力に対応した工法を検討するため、覆砂の試験施工を実施する。

- ①試験施工場所は、過去の試験施工地点で最も外力の大きい萩浦小橋下流地点とする。
- ②試験施工で用いる覆砂材は、過去の覆砂材適用性検討結果を参考に「単粒度碎石(中央粒径8mm以下)」、「粒度調整碎石(中央粒径2.36mm以下)」、「特殊マット+砂(中央粒径問わず)」の3ケースとする。
- ③試験施工後は、覆砂形状及び汚染物質の覆砂への混ざり込み状況等について調査を行う。
- ④下流部における水門の設置も含め、外力に対応した他の対策工法も検討する。

2. 中島閘門上流部について

- ①中島閘門上流部対策工事に係る監視の結果、対策工事によるダイオキシン類に係る水質への影響はなかったものと考えられる。
- ②対策工事事後調査の結果、水質、底質の監視基準を超えるダイオキシン類は測定されなかったが、一部で覆砂厚の減少がみられた。引き続き、モニタリングを継続しながら適切に管理されたい。
- ③覆砂工事における覆砂材投入時の監視基準については、覆砂工事によるSS、濁度、ダイオキシン類濃度の関連を調べる調査を実施して、見直しを行う必要がある。

3. 新港東埋立地Cポンドについて

Cポンド周辺のモニタリング調査の結果、環境基準値を超えるダイオキシン類は測定されていないことから、現在のところ封じ込め対策の効果が発揮されているものと考えられる。引き続き、モニタリングを継続しながら適切に管理されたい。